# 令 和 元 年 度

鹿児島県病院事業決算審査意見書

鹿児島県監査委員

# 鹿児島県知事 塩田 康一 殿

 鹿児島県監査委員
 長
 野
 信
 弘

 同
 大
 薗
 豊

 同
 市
 田
 洋
 一

 同
 成
 尾
 信
 春

令和元年度鹿児島県病院事業決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により令和2年7月31日付け財第46号で 審査に付された令和元年度鹿児島県病院事業決算について審査を行ったので、 別紙のとおり意見書を提出します。

第一	1	審	査	の	概	要	į						1
•	1	審	査	対	象	•							1
2	2	審	査	期	間								1
(	3	審	査	手	続	等	Ē						1
第2	2	審	査	の	結	ま	Į						1
第(	3	審	査	の	意	見	Ļ						1
•	1	経	営	状	況	ļ ,							1
	(1)		予:	算	の	執	行	状	況				1
	(2)	)	施	設	の	概	要	及	び	利	用	状 況	2
	(3)	) :	事業	纟収	支	(山又	益位	的収	支)				4
	(4)	)	資	本	的	収	支	-					6
	(5)	)	資	金	収	支							9
	(6)	١.	財	政	状	態							10
2	2	意			見	•							13
	(1)	i	総:	括	意	見							13
	(2)		個	別	意	見							14
另	i]	表											
	別	表	第 1		比	較	損	益	計	算	書		16
	別	表	第 2	2	比	較	貸	借	対	照	表		17
	別	表	第3	3	経	営	分	析	比	率	表		18

# 令和元年度鹿児島県病院事業決算審査意見書

#### 第1 審査の概要

- 1 審查対象 令和元年度鹿児島県病院事業決算
- 2 審査期間 令和2年8月1日から同年8月28日まで

#### 3 審査手続等

審査に当たっては, 鹿児島県病院事業について,

- (1) 常に企業の経済性を発揮するとともに、本来の目的である公共の福祉を増進するように運営されているか。
- (2) 予算の執行や収入支出等の事務など財務に関する事務は適正に執行されているか。
- (3) 決算書類が事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか。

を主眼として、決算書、附属書類、会計諸帳簿等の照合等通常実施すべき審査を実施したほか、 関係部局の説明を聴取するなどの方法によるとともに、例月現金出納検査及び定期監査の結果も 参考にしながら、慎重に審査を行った。

# 第2 審査の結果

審査に付された決算諸表は、地方公営企業法及び関係法規に準拠し、地方公営企業に係る会計原則に基づき作成され、その計数は、正確で事業の経営成績及び財政状態を適正に表示していた。 なお、財務に関する事務については、検討改善を要する事項があったものの、おおむね適正に執行されていると認められた。

また、事業の運営は、地方公営企業の経営の基本原則に沿って行われていると認められた。

# 第3 審査の意見

#### 1 経営状況

鹿児島県病院事業は、鹿屋医療センター、大島病院、姶良病院、薩南病院及び北薩病院の5病院を設置し、一般病床、精神病床など982病床で運営されている。

# (1) 予算の執行状況

令和元年度の予算の執行状況は、次表のとおりである。

予算の執行状況

区	分	予	算	額	決	算	額		章額に比 入 決 算 額 減		年 越		不	用名	領
収益的収支	収入 支出 差引	19, 8	896, 87	81, 000 78, 000 47, 000	19, 3	316, 89	48, 446 92, 845 55, 601		136, 61	7, 446 — —		- 0 -	579,	985,	— — 155 —
資本的収支	収入 支出 差引	1, 9	10, 54	14, 000 19, 000 35, 000	1, 3	319, 6	77, 000 12, 491 35, 491	Δ	557, 13	7, 000 — —	955	- 5, 000 -	108,	981,	- 509 -

(注) 本表は、消費税及び地方消費税込みの額である。

#### ア 収益的収支

収入は,予算額195億3,583万余円に対し,決算額は196億7,244万余円となり,支出は,予算額198億9,687万余円に対し,決算額は193億1,689万余円となり,決算収支は3億5,555万余円の黒字となっている。

収入において、予算額に対して決算額が1億3,661万余円上回ったのは、入院収益、外来収益が 見込みを上回ったことによるものであり、不用額の5億7,998万余円は、主に給与費、経費、 材料費、研究研修費の執行残によるものである。

# イ 資本的収支

収入は、予算額14億5,681万余円に対し、決算額は8億9,967万余円となり、支出は、予算額19億1,054万余円に対し、決算額は13億1,961万余円となり、決算収支は4億1,993万余円の赤字となっている。

収入において、予算額に対して決算額が5億5,713万余円下回ったのは、主に企業債の借入実績や国庫補助金の受入が見込みを下回ったことによるものであり、支出において、不用額の1億898万余円は、主に建設改良費の執行残によるものである。

# (2) 施設の概要及び利用状況

令和元年度の病院別の概要及び入院外来患者数は、次表のとおりである。

抦	阮	別	砒	安
な砂点到	/参点	毛 米 米		

病院名	所在地	主な診療科(診療科数)	主な指定・拠点病院等の状況
鹿屋医療 センター	鹿屋市	内科 循環器内科 外科 産科 婦人科 など (12科)	地域医療支援病院 地域周産期母子医療センター へき地医療拠点病院 DMAT指定病院 地域がん診療病院 など
大島病院	奄美市	内科 循環器内科 小児科 外科 産婦人科 など (20科)	地域医療支援病院 地域周産期母子医療センター へき地医療拠点病院 DMAT指定病院 地域がん診療病院 など
姶良病院	姶良市	精神科 歯科 (2科)	精神科応急入院指定病院 精神科救急病院 医療観察法病棟 スーパー救急病棟
薩南病院	南さつま市	内科 消化器内科 循環器内科 外科 など (10科)	地域医療支援病院 へき地医療拠点病院 DMAT指定病院 地域がん診療病院 など
北薩病院	伊佐市	内科 神経内科 呼吸器内科 外科 など (9科)	県がん診療指定病院 へき地医療拠点病院 DMAT指定病院 地域包括ケア病床 など

# 病院別入院外来患者数

	病院別 総 数			鹿屋医療センター		<b>,</b> 院	<u>。 1                                   </u>	病 院	薩南	病 院	北薩病院			
区分		患者数	延 べ 患者数	1 日 平 均 患者数	延 べ 患者数	1 平 均 患者数	延 べ 患者数	1 平 均 患者数	延 べ 患者数	1 平 均 患者数	延 べ 患者数	1 平 均 患者数	延 べ 患者数	1 平 均 患者数
入院	元 30 29	<b>; a</b> ) b	291, 567 288, 067 296, 441	<b>796. 6</b> 789. 2 812. 2	45, 001 40, 676 42, 499	123. 0 111. 4 116. 4	89, 316 90, 593 97, 670	248. 2	91, 780	253. 3 251. 5 255. 2	34, 389 34, 842 34, 031	94. 0 95. 5 93. 2	30, 167 30, 176 29, 110	
		<b>a-b=d</b> b-c=e	-	<b>7. 4</b> ∆ 23. 0	9	<b>i</b> –	<b>∆ 1, 277</b> ∆ 7, 077	<b>I</b> 1	<b>914</b> ∆ 1, 351	<b>I</b> –	Δ <b>453</b> 811	<b>i</b> –	Δ <b>9</b> 1, 066	1
者	較	<b>d/b</b> e/c	% <b>1. 2</b> ∆ 2. 8	% <b>0. 9</b> ∆ 2. 8	% 10. 6 △ 4. 3	% - -	% <b>∆ 1.4</b> △ 7.2	% <b>-</b> -	% 1. 0 △ 1. 5		Δ 1. 3 2. 4	% <b>-</b> -	Δ <b>0.0</b> 3.7	- - -

病院別入院外来患者数

	1	病院別	総	数	鹿屋医療	寮センター	大島	<b></b>	姶良 ៖	病 院	薩南非	病 院	北薩り	病 院
1	<b>丞</b>	患者数	延 べ 患者数	1 平 均 患者数	延 べ 患者数	1 日 平 均 患者数	延 べ 患者数	1 日 平 均 患者数	延 べ 患者数	1 平 均 患者数	延 べ 患者数	1 平 均 患者数	延 べ 患者数	1 平 均 患者数
/	分	年度				心口外		W D 9X		W.D 9X		心口外		\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
1		元 f 30 g	262, 511	1, 111. 0 1, 071. 5	47, 854		116, 813 115, 608	471.9	25, 472 24, 173		36, 924 37, 465	152. 9	37, 411	1 <b>57. 2</b> 152. 7
7	来	29 h	269, 778	1, 101. 1	49, 180	200. 7	119, 819	489. 1	23, 809	97. 2	38, 230	156. 0	38, 740	158. 1
ļ	患上	<b>f-g=i</b> g-h=j	<b>5, 230</b> ∆ 7, 267	<b>39. 5</b> ∆ 29. 6	-	1 1	<b>1, 205</b> ∆ 4, 211		<b>1, 299</b> 364		<b>∆ 541</b> ∆ 765	<del>-</del>	<b>479</b> ∆ 1, 329	1
	者 軟	交 i/g j/h	% <b>2. 0</b> △ 2. 7	3. <b>7</b> △ 2. 7	% <b>5. 8</b> ∆ 2. 7	% - -	% 1.0 ∆ 3.5	% - -	% <b>5. 4</b> 1. 5		% <b>∆ 1.4</b> △ 2.0	% <u>-</u> -	% 1. 3 ∆ 3. 4	% - -

病院を利用した延患者総数は、入院患者が291,567人で前年度に比べ3,500人(1.2%)増加、外来患者が267,741人で前年度に比べ5,230人(2.0%)増加となっており、また、1日平均患者数は、入院患者が796.6人で前年度に比べ7.4人(0.9%)増加、外来患者が1,111.0人で前年度に比べ39.5人(3.7%)増加となっている。

病院別の患者数を前年度と比べると、鹿屋医療センターと姶良病院は入院患者数、外来患者数ともに増加、大島病院、北薩病院は外来患者数が増加、薩南病院は入院患者数、外来患者数ともに減少している。

なお、医師については、各県立病院が地域の医療ニーズ等により医療サービスの提供に必要と考えている人数に比べて、令和2年4月現在、5病院31診療科で51人不足している。

また,病院別病床利用状況は,次表のとおりである。

病院別病床利用状況

				717 196 7	<u>דו נייף אוא ואול ניני</u>	1 1/7 7/0		
		病院別	総 数	鹿屋医療センター	大島病院	姶良病院	薩南病院	北薩病院
区分	年月	病床数	982床	150床	315床	267床	140床	110床
病床利	元 30 29	b	<b>81. 1</b> 80. 4 82. 7	<b>82. 0</b> 74. 3 77. 6	<b>77. 5</b> 78. 8 84. 9	<b>94. 9</b> 94. 2 95. 6	<b>67. 1</b> 68. 2 66. 6	<b>74. 9</b> 75. 2 72. 5
用率	比較	<b>a – b</b> b – c	<b>0.7</b> △ 2.3	<b>7.7</b> ∆ 3.3	<b>∆</b> 1.3 △ 6.1	<b>0.7</b> △ 1.4	Δ 1.1 1.6	Δ <b>0.3</b> 2.7
平均在院	元 30 29	е	<b>19. 0</b> 19. 5 19. 3	10. 8 10. 6 10. 8	13. 2 13. 8 13. 7	161. 2 163. 0 204. 6	13. 6 14. 6 14. 2	18. 4 17. 5 16. 8
日 数	比較	<b>d – e</b> e – f	<b>Δ 0. 5</b> 0. 2	<b>0.2</b> ∆ 0.2	<b>Δ 0. 6</b> 0. 1	<b>Δ 1.8</b> Δ 41.6	Δ 1. 0 0. 4	<b>0. 9</b> 0. 7

- 5病院全体の病床数は、982床で前年度と同じである。
- 5病院全体の病床利用率は、81.1%で前年度に比べ0.7ポイント高くなっている。

病院別では、鹿屋医療センター、姶良病院が前年度に比べ高くなり、大島病院、薩南病院、 北薩病院は入院患者数が前年度に比べ減少したことにより低くなっている。

5病院全体の平均在院日数は,19.0日で前年度に比べ0.5日短くなっており, 鹿屋医療センター, 北薩病院を除く3病院で短くなっている。

なお、長期の入院患者が多い姶良病院は、161.2日と他病院に比べ大幅に長くなっている。

# (3) 事業収支(収益的収支(消費税抜き))

令和元年度の経営成績は、次表のとおりであり、事業収支は、事業収益196億4,891万余円に対し、事業費用193億3,839万余円で差し引き3億1,051万余円の純利益となっている。

	事未状文(状無り状文)														
	1	区分		事業	収益	益	事	業	費用	1	事 業 収 支				
			医 業	医業外	特別	計	医 業	医業外	特別	計	医業	医業外	特別	特別	計
			ı <del>l⊐ ++</del>	11 <del>7 }/</del>	या <del>)</del>	(ALDIC)	<b>弗</b> 田	<b>弗</b> 田	+E #-	(E.E.G)	収支	収支	या <del>)</del>	+E #-	(I+J+C-G)
4	丰度	<u>.</u>	収 益 A	収 益 B	利益 C	(A+B+C) D	費 用 E	費 F	損失 G	(E+F+G) H	(A—E)	(B—E)	利 益 K	担 L	又は(D—H) M
	1/2		刊					1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				刊	刊		刊
	元	а	16, 388	3, 260,		19, 648,	18, 645,	692,			Δ 2, 257,				310,
			087	826	0	914	953	443	0	397	866	383	0	0	517
	30	b	15, 698,				17, 992,	606,		18, 612,		2, 586,		13,	279,
			942	195	0	138	643	648	227	518	701	547	0	227	619
	29	С	16, 070,			19, 356,		667,		18, 956,					399,
			940	258	0	198	824	484	0	309	884	773	0	0	889
	a-	-b=d	689,	67,		756,	653,	85,	Δ13,	725,	35,	Δ 18,		Δ13,	30,
			145	631		776	311	795	227	878	834	164	0	-	898
比	b-	-с=е	∆ 371,	△ 92,		△ 464,	Δ 296,	Δ 60,	13,	∆ 343,	△ 75,	Δ 31,		13,	∆ 120,
			998	062	0	060	182	836	227	790	816	226	0	227	270
			0/	0/	0/	0/	0/	0/	0/	0/	0/	0/	0/	0/	0/
献	e d	/ b	% <b>4</b> . <b>4</b>	% <b>2</b> . <b>1</b>		% <b>4</b> . <b>0</b>	3. <b>6</b>	% <b>14</b> . <b>1</b>	% <b>皆減</b>	% 3. 9		δ Δ <b>0</b> . <b>7</b>	%	% <b>皆減</b>	11. <b>0</b>
+>															
	е	/ c	△ 2.3	△ 2.8		△ 2.4	△ 1.6	△ 9.1	皆増	Δ 1.8	△ 3. 4	△ 1.2	_	皆増	△ 30. 1
L										l					

事業収支(収益的収支)

# ア 事業収益

事業収益は、196億4,891万余円で前年度に比べ7億5,677万余円(4.0%)増加している。

# <医業収益>

事業収益の主体である医業収益は、163億8,808万余円で前年度に比べ6億8,914万余円 (4.4%) 増加している。

これは、入院収益及び外来収益の増により診療収益が増加したことなどによるものである。

#### く医業外収益>

医業外収益は、32億6,082万余円で前年度に比べ6,763万余円(2.1%)増加している。 これは、長期前受金戻入の増などに伴い増加したものである。

# イ 事業費用

事業費用は、193億3,839万余円で前年度に比べ7億2,587万余円(3.9%)増加している。

<sup>(</sup>注) 1 本表は、消費税及び地方消費税抜きの額である。

<sup>2</sup> 端数処理のため、各計は必ずしも一致しない。

# <医業費用>

事業費用の主体である医業費用は,186億4,595万余円で前年度に比べて6億5,331万余円(3.6%)増加している。

これは、材料費、給与費、経費などが増加したことによるものである。

なお,事業費用に占める給与費の割合は,55.8%で前年度に比べ 0.6ポイント低くなっている。

# <医業外費用>

医業外費用は, 6 億9,244万余円で前年度に比べ8,579万余円 (14.1%) 増加している。 これは, 雑損失が増加したことによるものである。

# <特別損失>

特別損失は、0円で前年度に比べ皆減となっている。

# ウ 事業収支

事業収益から事業費用を差し引いた事業収支は、3億1,051万余円の純利益となっており 前年度に比べ3,089万余円(11.0%)増加している。

事業収支の利益が昨年に比較し増加したのは、医業費用が6億5,331万余円増加したものの、医業収益が6億8,914万余円増加したことによるものである。

# <医業収支>

医業収支は, 次表のとおりである。

医 業 収 支

年	区分渡	医業収益A	医業費用 B	医業収支(A-B)	医 業 収 支 比率 (A/B)		
	元 a	16, 388, 087, 267 <sup>円</sup>	18, 645, 953, 371 <sup>円</sup>	Δ 2, 257, 866, 104	<b>87.</b> 9		
	30 b	15, 698, 942, 263	17, 992, 642, 780	△ 2, 293, 700, 517	87. 3		
	29 с	16, 070, 940, 316	18, 288, 824, 437	△ 2, 217, 884, 121	87. 9		
比	a-b=d	689, 145, 004	653, 310, 591	35, 834, 413	0. 6		
1	b-c=e	∆ 371, 998, 053	△ 296, 181, 657	△ 75, 816, 396	Δ 0.6		
較	d /  b	4. 4	3. 6	1. 6			
蚁	e /  c	Δ 2.3	Δ 1.6	△ 3.4			

<sup>(</sup>注) 本表は、消費税及び地方消費税抜きの額である。

医業収益から医業費用を差し引いた医業収支は,22億5,786万余円の損失で前年度に比べ3,583万余円改善している。

これは、医業費用が、材料費等の増により前年度に比べ、6億5,331万余円の増となったものの、医業収益が患者数の増等により前年度に比べ6億8,914万余円増加したことによるものである。

なお、医業収支比率(医業費用に対する医業収益の割合)は、87.9%で前年度と比べ0.6ポイント高くなっている。

患者1人1日当たり医業収支は、次表のとおりである。

患者1人 区分 入院 • 外来別 患者1人 患者1人 左の内訳 1日当たり 患者1人 患者1人 1日当たり 1日当たり 医業収益 1日当たり 医業費用 給与費 材料費 その他 医業収支 1日当たり 年度 入院収益 外来収益 (A-B)14, 439 29, 301 38, 936 <sup>h</sup> 7, 358 <sup>H</sup> Δ 4, 037 33, 338 <sup>11</sup> 19, 297 6, 683 <sup>11</sup> 元 a 30 b 28, 514 37,677 14,026 32,680 19,069 6, 205 7,406 △ 4, 166 28, 383 13, 934 32, 300 18,706 7,081 29 c 37,674 6,513 △ 3,917 a-b=d 787 1, 259 413 658 228 478 Δ 48 129 比 △ 249 b-c=e131 3 92 380 363 ∆ 308 325 d /|b| Δ 0.6 2. 8 3. 3 2. 9 2. 0 1. 2 7. 7 3. 1 較 e / | c | 0.5 △ 4.7 △ 6.4 0.00.7 1.2 1.9 4.6

患者1人1日当たり医業収支

患者 1 人 1 日当たり医業収益は、29,301円で前年度に比べ787円(2.8%)増加しており、また、患者 1 人 1 日当たり医業費用は、33,338円で前年度に比べ658円(2.0%)増加している。

この結果, 患者 1 人 1 日当たり医業収支は, 4,037円の損失で前年度と比べ129円 (3.1%) 改善している。

# (4) 資本的収支

令和元年度の資本的収支は、次表のとおりである。

資本的収支

	<i>y</i> 1,	<b>1</b>	
資 本 的	収 入	資 本 的	支 出
区 分	金 額	区 分	金額
企業債	日 240, 000, 000	病院整備費	用 318, 430, 143
他会計負担金	630, 136, 000	資産購入費	240, 166, 764
国 庫 補 助 金	27, 421, 000	企業債償還金	723, 628, 584
長期貸付金返還金	2, 120, 000	長期貸付金	13, 270, 000
基金繰入金	0	基金積立金	9, 139, 000
		その他資本的支出	14, 978, 000
合 計	899, 677, 000	合 計	1, 319, 612, 491

<sup>(</sup>注) 本表は、消費税及び地方消費税込みの額である。

<sup>(</sup>注) 本表は、消費税及び地方消費税抜きの額である。

資本的収支において、収入は、企業債、他会計負担金、国庫補助金、長期貸付金返還金の合計 8億9,967万余円となっており、支出は、病院整備費、資産購入費、企業債償還金、長期貸付金、基金積立金、その他資本的支出の合計13億1,961万余円となっている。

収入額から支出額を差し引いた不足額4億1,993万余円は、次表のとおり過年度分損益勘定留保 資金などで補塡されている。

補	塡	財	源	補 塡 額
				Ħ
当年度分消費稅	込び地方消費	45, 038, 699		
過年度分	·損益勘	定留保	資 金	374, 896, 792
合		<u> </u>	計	419, 935, 491

- (注) 1 「当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額」は、資本的収支において支払った消費税及び地方消費税と受け取った消費税及び地方消費税の差額である。
  - 2 「過年度分損益勘定留保資金」は、前年度以前に発生した損益勘定留保資金(収益的支出 に計上した費用のうち減価償却費など現金支出を伴わないものの合計額で、内部に留保され る資金)であるが、当年度の補塡財源として使用できる額は、過年度に使用した額を控除し た残額である。

なお、令和元年度の病院整備費及び資産購入費の内訳は、次表のとおりである。

病院整備費及び資産購入費 (単位:円) 区分 産 購 病 病院別 項 目 額 項 目 額 空調機器更新工事 6,820,000 (300万円以上) 4件 鹿屋医療 超音波診断装置 14, 169, 600 センター 内視鏡ファイリングシステム 11,604,600 内視鏡手術システム 11, 296, 800 調剤支援システム 3, 498, 984 (300万円未満) 31件 20, 544, 189 6,820,000 35件 61, 114, 173 鹿児島県立大島病院新規リニアッ 131, 372, 000 (300万円以上) 6件 大島病院 ク棟新築工事(本体)・外構工事 外科用イメージ装置 21, 340, 000 ヤグレーザー装置 (撤去工事) 7, 246, 800 鹿児島県立大島病院新規リニアッ 3,024,000 超音波画像診断装置 5,821,200 セクション用ノートパソコン ク棟新築工事監理業務委託 4,504,500 鹿児島県立大島病院新規リニアッ 42, 876, 000 透析液溶解装置 4, 309, 200 ク棟新築工事(電気設備工事, 心電図検査装置 3, 542, 400 改修工事,外構工事) 塔屋ヒートポンプチラー改修工事 4, 565, 000 県立大島病院ブロック塀改修工事 495,000 設計業務委託 (300万円未満) 15件 19, 084, 108 182, 332, 000 21件 65, 848, 208 3病棟内装等リニューアル・空調 103, 918, 023 (300万円以上) 3件 姶良病院 生化学自動分析装置 14, 385, 600 3病棟内装等リニューアル・空調 患者用ベッド 2, 145, 000 9, 240, 000 工事監理業務委託 冷蔵庫等厨房機器 8,030,000 急性期病棟整備等工事設計業務 10, 450, 000 委託 (300万円未満) 20件 11, 227, 252 23件 計 116, 513, 023 42, 882, 852 (300万円以上) 薩南病院 血管造影X線診断システム 19, 112, 000 業務用パソコン 3,696,000 (300万円未満) 26件 16, 148, 025 28件 38, 956, 025 設計委託 103,680 (300万円以上) 4件 北薩病院 北薩病院4階他防水工事 12,661,440 無影灯 5,076,000 CT用コンソール 4, 320, 000 骨密度測定装置 3, 456, 000 人工呼吸器 3,058,000 (300万円未満) 17件 9, 909, 497 12, 765, 120 21件 25, 819, 497 計 県立病院課 (300万円未満) 1件 2, 410, 154 合 計 318, 430, 143 合 計 129件 237, 030, 909 有形リース 3, 135, 855 1件 資産購入費 318, 430, 143 130件 240, 166, 764

<sup>(</sup>注) 本表は、消費税及び地方消費税込みの額である。

有形リース資産購入費は、会計基準の見直しに伴うもので、令和元年度の新規リースはない。

全体の病院整備費は3億1,843万余円で、資産購入費は2億4,016万余円である。

なお、購入資産のうち医療機器等については、鹿屋医療センターに超音波診断装置、大島病院に外科用イメージ装置、姶良病院に生化学自動分析装置、薩南病院に血管造影X線診断システム、北薩病院に無影灯など診療に必要な機器等を整備して、疾病の早期発見や高度専門医療等の充実に努めている。

# (5) 資金収支

令和元年度の資金収支(減価償却前の収益的収支と資本的収支の合計)は、次表のとおりである。

# 資 金 収 支

		貝 业 仏	<u> </u>	
	収	入	支	出
		H		H
収益的	収益的収入 a	19, 672, 448, 446	収益的支出	b 19, 316, 892, 845
収支				
			収益的収支 c(a-	-b) 355, 555, 601
			減価償却費	1, 169, 249, 384
			固定資産除却費	10, 508, 438
			長期前受金戻入等	△ 550, 415, 129
			,	
			当年度損益勘定留保資金	d 629, 342, 693
			収益的収支資金剰余額 e(c-	-d) 984, 898, 294
資本的	資本的収入 f	899, 677, 000	資本的支出	g 1, 319, 612, 491
収 支			資本的収支 h(f-	-g) ∆ 419, 935, 491
<del>-</del>				
			資金剰余額 e-	-h 564, 962, 803

# 資 金 残 高

区 分	29年度	30年度	元年度
	Ħ	A	Ħ
資金剰余額	369, 588, 701	324, 277, 202	<b>564, 962, 803</b> (B)
内部留保算定誤り調整	Δ 583, 484, 315	0	0
年度末資金残高	7, 166, 758, 110	7, 491, 035, 312 (A)	8, 055, 998, 115

(注)令和元年度末資金残高=(A)+(B)

令和元年度末の資金残高は、前年度末資金残高から5億6,496万余円増加し、80億5,599万余円となっている。

この結果, 鹿児島県立病院事業基金47億5,153万余円を加えた実質の資金残高は,128億752 万余円となっている。

# (6) 財政状態

令和元年度の財政状態は、次表のとおりであり、資産合計324億9,571万余円、負債合計125億6,253万余円、資本合計199億3,317万余円となっている。

年 度			比	較
	元年度	30年度	増減額	増減率
				<u>A-B</u>
科目	Α	В	A - B	B
	円	円	円	%
1 固定資産	21, 161, 865, 494	21, 815, 762, 637	△ 653, 897, 143	Δ 3.0
2 流動資産	11, 333, 847, 019	10, 684, 597, 840	649, 249, 179	6. 1
資産合計	32, 495, 712, 513	32, 500, 360, 477	1 4, 647, 964	Δ 0.0
3 固定負債	6, 621, 920, 394	6, 853, 634, 715	Δ 231, 714, 321	△ 3.4
4 流動負債	2, 716, 580, 616	2, 887, 411, 059	∆ 170, 830, 443	Δ 5. 9
5 繰延収益	3, 224, 036, 891	3, 136, 656, 993	87, 379, 898	2.8
負債合計	12, 562, 537, 901	12, 877, 702, 767	∆ 315, 164, 866	Δ 2.4
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	, , ,	, , ,		
6 資本金	27, 078, 811, 357	27, 078, 811, 357	0	0.0
7 剰余金	Δ 7, 145, 636, 745	∆ 7, 456, 153, 647	310, 516, 902	4. 2
当年度未処理欠損金	Δ 7, 477, 833, 332	∆ 7, 788, 350, 234	310, 516, 902	4.0
W. I A = I				
資本合計	19, 933, 174, 612	19, 622, 657, 710	310, 516, 902	1.6
互体≫→∧⇒	00 405 710 510	00 500 060 455	1 4 647 064	1.0.0
負債資本合計	32, 495, 712, 513	32, 500, 360, 477	△ 4, 647, 964	Δ 0.0
(沙) 未主は 淡弗科立の	では十次事状やその病さ			

比較貸借対照表 (別表第2抜粋)

# ア 資産

資産合計は、324億9,571万余円で前年度に比べ464万余円(0.0%)減少している。

- (7) 固定資産は、211億6,186万余円で前年度に比べると4病院の施設整備による建物の固定資産が3億3,242万余円増加したが、5病院の有形固定資産の減価償却累計額が9億7,433万余円増加したことにより、6億5,389万余円(3.0%)減少している。
- (イ) 流動資産は、113億3、384万余円で前年度に比べ6億4、924万余円(6.1%)増加している。 これは、資金収支が5億6、496万余円の資金余剰となったことなどから現金預金が増加し たことなどによるものである。

# イ 負債・資本

- (7) 負債合計は、125億6,253万余円で前年度に比べ3億1,516万余円(2.4%)減少している。 これは、企業債が前年度に比べ4億8,362万余円減少したことなどによるものである。
- (4) 資本合計は,199億3,317万余円で前年度に比べ3億1,051万余円(1.6%)増加している。 これらにより,負債資本合計は,324億9,571万余円となり,前年度に比べ464万余円 (0.0%)減少している。

<sup>(</sup>注) 本表は、消費税及び地方消費税抜きの額である。

なお,前年度からの繰越欠損金77億8,835万余円に令和元年度の純利益3億1,051万余円を加えた当年度未処理欠損金74億7,783万余円は、繰越欠損金として翌年度へ繰り越すこととしている。

# ウ 経営分析

経営の健全性・効率性・収益性を示す主な経営指標は、次表のとおりである。

# 経営分析比率表 (別表第3抜粋)

77		- <del></del>	304	年度
項目	算 式	元年度	本 県	全 国
自己資本構成比率(%)	資本金+剰余金+評価差額等+繰延収益 負債資本合計 ×100	71. 3	70.0	22. 1
流動比率(%)	流動資 <u>産</u> 流動負債 ×100	417. 2	370.0	141.7
自己資本回転率(回)	医業         収益           (期首自己資本+期末自己資本)×1/2	0. 71	0.69	2. 36
固定資産回転率(回)	医業         収益           (期首固定資産+期末固定資産)×1/2	0. 76	0.71	0.68
総資本利益率(%)	<u>当 年 度 経 常 利 益</u> (期首総資本+期末総資本)×1/2 ×100	0. 96	0.90	0.75
総収支比率(%)	<u>総収益</u> 総費用 ×100	101. 6	101.5	98.3
給与費対診療収益比率(%)	<u>給与費</u> ×100 診療収益	70. 4	68. 0	61.2
病床利用率(%)	年延入院患者数 年延病床数 ×100	81. 1	80. 4	72. 1

# (7) 健全性

自己資本構成比率は,71.3%で前年度に比べ1.3ポイント上回っている。 流動比率は,417.2%で前年度に比べ47.2ポイント上回っている。

# (1) 効率性

自己資本回転率は、0.71回で前年度に比べ0.02ポイント上回っている。 固定資産回転率は、0.76回で前年度に比べ0.05ポイント上回っている。

# (ウ) 収益性

総資本利益率は、0.96%で前年度に比べ 0.06ポイント上回っている。 総収支比率は、101.6%で前年度に比べ0.1ポイント上回っている。 給与費対診療収益比率は、70.4%で前年度に比べ2.4ポイント上回っている。 病床利用率は、81.1%で入院患者数の増により前年度に比べ0.7ポイント上回っている。

# (参考) 病院別主要指標及び病院別収支

令和元年度の経営成績や財政状態等について,病院別にまとめた主要指標及び収支は,次 表のとおりである。

病院別主要指標

区 分	総数	鹿屋医療センター	大島病院	姶良病院	薩南病院	北薩病院
病床利用率(%)	81.1	82. 0	77. 5	94. 9	67. 1	74. 9
	(80.4)	(74.3)	(78.8)	(94. 2)	(68. 2)	(75. 2)
平均在院日数(日)	19.0	10.8	13. 2	161. 2	13. 6	18.4
	(19.5)	(10.6)	(13.8)	(163. 0)	(14. 6)	(17. 5)
1日平均入院患者数(人)	796. 6	123. 0	244. 0	253. 3	94. 0	82. 4
	(789. 2)	(111. 4)	(248.2)	(251.5)	(95.5)	(82.7)
1日平均外来患者数(人)	1, 111. 0	210. 1	484. 7	105. 7	153. 2	157. 2
	(1,071.5)	(195. 3)	(471.9)	(98. 7)	(152.9)	(152.7)
患 者 数 (人)	559, 308	95, 643	206, 129	118, 166	71, 313	68, 057
	(550, 578)	(88, 530)	(206, 201)	(115, 953)	(72, 307)	(67, 587)
入院患者	291, 567	45, 001	89, 316	92, 694	34, 389	30, 167
	(288, 067)	(40, 676)	(90, 593)	(91, 780)	(34, 842)	(30, 176)
外来患者	267, 741	50, 642	116, 813	25, 472	36, 924	37, 890
	(262, 511)	(47, 854)	(115, 608)	(24, 173)	(37, 465)	(37, 411)
診療収益 (千円)	15, 218, 266	3, 110, 093	5, 905, 090	2, 272, 392	2, 432, 368	1, 498, 322
	(14, 535, 470)	(2,992,649)	(5,647,305)	(2, 231, 364)	(2, 170, 053)	(1, 494, 099)
入院収益	11, 352, 334	2, 299, 403	4, 371, 403	1, 916, 310	1, 708, 429	1, 056, 788
	(10, 853, 465)	(2, 126, 671)	(4, 243, 668)	(1, 892, 457)	(1, 518, 782)	(1,071,887)
外来収益	3, 865, 932	810, 690	1, 533, 687	356, 082	723, 939	441, 534
	(3,682,005)	(865, 977)	(1, 403, 636)	(338, 908)	(651, 271)	(422, 212)

- (注) 1 本表は、消費税及び地方消費税抜きの額である。
  - 2 表中の上段は元年度、下段括弧書きは30年度の決算に係るものである。
  - 3 端数処理のため、各計は必ずしも一致しない。

**病 院 別 収 支** (単位:千円)

区分	全 体	鹿屋医療センター	大島病院	姶良病院	薩南病院	北薩病院
総 収 益 (a)	19, 648, 914	3, 938, 994	7, 714, 331	3, 176, 835	2, 893, 950	1, 924, 804
総 費 用 (b)	19, 338, 397	3, 797, 482	7, 922, 434	2, 587, 442	2, 991, 054	2, 039, 985
減価償却等前収支	939, 860	225, 634	60, 034	641, 500	38, 104	△ 25, 413
減価償却等後収支						
(a) - (b)	310, 517	141, 512	△ 208, 103	589, 394	△ 97, 104	△ 115, 181
	564, 963					
資 金 収 支	[ 574, 102]	78, 664	10, 555	535, 181	1, 488	△ 60, 926
経 常 収 支	310, 517	141, 512	△ 208, 103	589, 394	△ 97, 104	Δ 115, 181

- (注) 1 本表は、消費税及び地方消費税抜きの額である。
  - 2 [ ]は、現金支出を伴わない基金に係る利息の経理処理前の実質金額である。
  - 3 経常収支は、収益的収支から特別損失等を除いた収支である。
  - 4 端数処理のため、各計は必ずしも一致しない。

# 2 意見

# (1) 総括意見

鹿児島県病院事業は、平成29年度から令和3年度までが計画期間となる「県立病院第二次中期事業計画」(以下「第二次中期事業計画」という。)に基づき、県立病院全体の医療面・経営面の目標に加え、病院ごとの目標を設定し、これらの目標達成に向けた様々な取組を行っている。

令和元年度の決算は,事業収益が196億4,891万余円,事業費用が193億3,839万余円で,事業収支は,3億1,051万余円の純利益となり,前年度の2億7,961万余円に比べ3,089万余円の増となっている。

事業収益の主体である医業収益については、入院収益及び外来収益の増により診療収益が増加したことなどから、前年度に比べ6億8,914万余円の増となっている。

医療面においては、各種指定病院としての機能強化、地域の医療ニーズに対応した専門外来の充実、指導医や専門医、認定看護師など有資格者の計画的養成・確保、他の医療機関等との連携の推進などに取り組むことにより、相応の成果が得られている。

経営面においては、経常収支が黒字となっているのは、鹿屋医療センター、姶良病院の2病院で、病院事業全体の黒字額は3億1,051万余円となり、資金収支が黒字となっているのは、鹿屋医療センター、大島病院、姶良病院、薩南病院の4病院で、病院事業全体の黒字額は5億6,496万余円となっている。

この結果,平成18年度の地方公営企業法の全部適用後は,経常収支が11年連続で黒字,資金収支も実質14年連続で黒字となり,職員一丸となった様々な経営改善への取組やその効果が持続されている。

しかしながら、今後の県立病院を取り巻く環境は、診療圏人口の著しい減少や少子高齢化による人口構造の変化、深刻な医師不足や診療報酬改定等の医療制度改革、新型コロナウイルスの感染拡大が医療提供体制や医業収益に及ぼす影響、さらには、施設の老朽化に伴う設備投資の増加など、大きな課題や不安定要因がある。

このため、今後も「第二次中期事業計画」の目標達成に向け以下について、様々な取組を行 うことが必要である。

医療面の目標については、まず、病院を取り巻く諸課題への取組について、診療圏人口の減少に伴う患者減や高齢化の進行による疾病構造の変化に対応するため、地域の医療機関等との連携強化や救急体制の強化による積極的な患者受入、高齢者に多い疾患への対応、不足する医療の提供に努める必要がある。

次に、医療機能の充実・強化については、地域の中核的医療機関として、高度・専門医療や 救急医療、政策医療のほか、各種指定病院として、医療機能の充実・強化を図る必要がある。

人材の確保・養成については、医療機能の充実を図るため、医師等の確保とともに、専門医や認定看護師等の資格取得を支援し、計画的な人材養成に努め、併せて、初期臨床研修医の確保とともに、新専門医制度における各種研修施設の指定を受け、地域枠医師をはじめとする医師の受入に努める必要がある。

地域医療連携の強化については、地域医療連携室の組織・機能を充実し、他の医療機関等との役割分担と連携強化を図りながら、地域に必要な医療提供体制を確保するとともに、ICTを活用した地域医療情報ネットワークを構築し、地域の医療機関で患者診療情報等の共有化を図ることが必要である。

地域包括ケアシステムの構築に向けた役割については、地域包括ケアシステムの後方支援病院として、在宅医療を担う医療機関や介護施設等との連携を図りながら、急性期患者等を受け入れるとともに、在宅復帰を支援するため、リハビリや退院支援などの医療提供体制の充実・強化を図ることが必要である。

- 一方,経営面の目標は,経常収支及び資金収支が黒字の病院は黒字の維持を,経常収支及び 資金収支が赤字の病院は第二次中期事業計画期間中の黒字化を達成する努力が必要である。
- 一般会計からの繰入金については、国の指導基準の範囲内とし、繰越欠損金については、解 消・縮小に向けて最大限努力する必要がある。

また、薩南病院は令和4年度に移転建替することを令和元年度に決定したが、他の病院においても、施設の老朽化が課題となっている。今後、施設の更新など大規模な設備投資については、その後の病院経営に大きな影響を与える可能性があることから、他病院も含め計画的な設備投資に努める必要がある。

これらの目標達成に向けた取組については,「第二次中期事業計画」に定める数値目標を達成できるよう,毎年度検証を行うとともに,計画の着実な実施に努め,引き続き県立病院としての役割や機能の充実,経営の更なる安定化を図ることが必要である。

# (2) 個別意見

財務に関する事務については、以下のような検討・改善を要する事項があった。

未収金のうち診療報酬等における個人負担分については、非常勤職員などによる回収に取り組んできたが、1億17万余円となっている。

診療報酬は病院経営の基幹的財源であり、これを確実に収納し、新たな未収金を発生させないことが何よりも肝要であることから、速やかな請求・収納に努めるとともに、休日等時間外診療費の預かり金制度の活用などに引き続き徹底して取り組むことが必要である。

また、未収となった診療報酬については、負担の公平を図る観点からも、督促や訪問徴収の 強化、支払能力のある長期未納者に対する法的措置の拡充など、「鹿児島県立病院事業未収金 対策実施要領」等に基づく体系的な債権管理・債権回収に引き続き取り組む必要がある。

なお、平成30年度から診療費のクレジットカード決済を試験的に導入した大島病院においては、本格導入に移行するとともに、診療材料等の効率的な在庫管理を図るシステムを導入するなど、利用者の利便性向上や業務改善に向けた新たな取組を行っており、一部他の病院においても、追随する動きが見られる。キャッシュレス化の普及や業務のデジタル化の進捗を踏まえると、新たな未収金の発生防止や業務の効率化に資するこうした先進的な取組は、他病院においても導入に向けた検討を進める必要がある。

会計事務については、平成30年度決算審査意見を踏まえ、概ね適正に処理されていたが、各 県立病院において、認定事務等の遅延等による職員手当の追給や返納事例が散見された。これ らは、県立病院局における認定事務等を知事部局で導入している庶務事務システムによらず、 基本的に手作業で処理しており、県立病院事務職員の業務量が多大となっていることなどが要 因となっている。そのため、令和元年度においては、年末調整事務への庶務事務システムの一 部導入や、庶務事務システム更新業務に係る提案選定委員会への参画など、業務改善に向けた 取組を行っているところであるが、今後とも、こうした取組を推進するとともに、実務に関す る知識・技術等の確実な習得や継承等が行われるよう会計事務研修等を充実させるなどの対策 を講じる必要がある。

会計事務の執行に当たっては、関係法令や県立病院事業会計規程等に基づき適宜適切に行うことが肝要であり、引き続き監督者や企業出納員による確実な確認の実施、病院相互間による着実・実効ある自主検査の実施、県立病院課による会計指導・検査の充実強化などに取り組む必要がある。

# 別 表

# 比 較 損 益 計 算 書

年度		r#:	工 収	<b>担</b>		** 0 =	he ste				±4-	
	R元年	·度	H 3 0	牛皮		H 2 9	牛皮	1	比	1	較	
区分	金 額	構対		構	対医	金 額	構成	対医	増源	<b>瀬</b>	増源	太 率
科目	A	成 業場比 益比		成比	業収益比	С	成比	業収益比	A - B	B-C	<u>A-B</u>	$\frac{B-C}{ C }$
	円	%	% F	9 %	%	円	%	%	円	円	D   %	C   %
					/0				1,	1,1	70	/0
病院事業収益 a	19, 648, 913, 711	100.0	18, 892, 137, 58	8 100.0		19, 356, 197, 816	100.0		756, 776, 123	△ 464, 060, 228	4. 0	△ 2.4
	1											
医業収益	16, 388, 087, 267	83.4 100	0 15, 698, 942, 26	3 83. 1	100.0	16, 070, 940, 316	83. 0	100.0	689, 145, 004	△ 371, 998, 053	4. 4	△ 2.3
	1											
入院収益	11, 352, 334, 091	57.8	10, 853, 464, 79			11, 168, 249, 498				△ 314, 784, 704	4. 6	△ 2.8
外来収益	3, 865, 931, 601	19. 7	3, 682, 005, 15			3, 759, 149, 129			183, 926, 446		5. 0	△ 2.1
他会計負担金	928, 066, 000 241, 755, 575	4. 7 1. 2	928, 519, 000 234, 953, 31			907, 124, 000 236, 417, 689			△ 453, 000 6, 802, 261		△ 0.0 2.9	2. 4 \triangle 0. 6
20月巴拉来•汉血	241, 100, 010	1. 2	201, 300, 01	1.2		200, 111, 003	1.2		0, 002, 201	△ 1, 101, 010	2. 3	△ 0.0
医業外収益	3, 260, 826, 444	16. 6	3, 193, 195, 32	5 16.9		3, 285, 257, 500	17. 0		67, 631, 119	△ 92, 062, 175	2. 1	△ 2.8
	1											
受取利息	38, 211, 676	0.2	38, 246, 05	0.2		36, 958, 178	0.2		△ 34, 378	1, 287, 876	△ 0.1	3. 5
他会計負担金	2, 545, 732, 689	13.0	2, 597, 939, 97	6 13.8		2, 637, 952, 855	13.6		△ 52, 207, 287		△ 2.0	△ 1.5
補助金	54, 282, 360	0.3	49, 808, 14	6 0.3		49, 329, 750	0.3		4, 474, 214	478, 396	9. 0	1.0
患者外給食収益	0	-		0 -		0	_		0	0	-	_
長期前受金戻入	555, 199, 102	2.8	447, 032, 720			445, 267, 004			108, 166, 376		24. 2	0.4
医業外雑収益	67, 400, 617	0. 3	60, 168, 423	0. 5		115, 749, 713	0.6		7, 232, 194	△ 55, 561, 290	12.0	△ 48.0
特別利益 ア	0	_		0 -		0	_		0	0	_	_
固定資産売却益	0	-		0 -		0	_		0	0	_	_
その他特別利益	0	-		0 –		0	_		0	0	-	_
病院事業費用 b	19 338 396 809	100 0 118	0 18, 612, 518, 47	6 100 0	118 6	18 956 308 793	100.0	118 0	795 878 333	△ 343, 790, 317	3. 9	△ 1.8
<b>州机争未</b> 复用 0	13, 330, 330, 303	100.0 110	0 10, 012, 010, 47	0 100.0	110.0	10, 330, 300, 133	100.0	110.0	120, 010, 000	△ 343, 130, 311	5. 5	△ 1.0
医業費用	18, 645, 953, 371	96. 4 113	8 17, 992, 642, 78	96.7	114. 6	18, 288, 824, 437	96. 5	113.8	653, 310, 591	△ 296, 181, 657	3.6	△ 1.6
66 to 188		0					== 0					
給与費 材料費	10, 793, 160, 695		9 10, 498, 722, 303			10, 591, 749, 569 3, 687, 690, 791					2. 8 9. 4	△ 0.9 △ 7.4
経費	3, 738, 078, 961 2, 877, 976, 142	19.3 22 14.9 17			21. 8 17. 7	2, 724, 660, 222	19. 5 14. 4		101, 440, 747	△ 271, 628, 342 51, 875, 173	3. 7	1.9
減価償却費	1, 169, 249, 384	6.0 7			7. 6	1, 185, 024, 089			△ 23, 636, 442	7, 861, 737	△ 2.0	0.7
資産減耗費	17, 061, 703		1 48, 355, 849		0.3	39, 022, 113			△ 31, 294, 146			23. 9
研究研修費	50, 426, 486	0.3	3 60, 080, 95		0.4	60, 677, 653		0.4	△ 9,654,472			△ 1.0
医業外費用	692, 443, 438	3.6 4	2 606, 648, 33	3.3	3. 9	667, 484, 356	3. 5	4. 2	85, 795, 105	△ 60, 836, 023	14. 1	△ 9.1
支払利息	72, 009, 056		4 80, 816, 59	9 0.4	0.5	89, 979, 354	0. 5		△ 8, 807, 543	△ 9, 162, 755	△ 10.9	△ 10.2
患者外給食材料費 貸倒損失	462 015		0 262, 06	4 0.0	0.0	222 201	0.0	0.0	200 851	28, 763	76.6	12. 3
雑損失	462, 915 619, 971, 467		8 525, 569, 679		3. 3	233, 301 577, 271, 701	3.0		200, 851 94, 401, 797		18. 0	12. 3 △ 9. 0
<b>本田景</b> 人	013, 311, 401	0.2	020, 003, 01	2.0	0.0	011, 211, 101	0.0	0.0	31, 101, 131	△ 01, 102, 001	10.0	△ 5.0
特別損失 イ	0	- 0	0 13, 227, 365	0.1	0.1	0	_	0.0	△ 13, 227, 363	13, 227, 363	皆減	皆増
経常利益	310, 516, 902		292, 846, 47	5		399, 889, 023			17, 670, 427	△ 107, 042, 548	6. 0	△ 26.8
(a-7)-(b-1)												
(4 // (1) 1/												
当年度純利益	310 516 009		270 610 111			300 000 000			30 907 700	A 120 260 011	11 0	A 20 1
	310, 516, 902		279, 619, 113	۵		399, 889, 023			JU, 897, 790	△ 120, 269, 911	11.0	△ 30.1
(純損失) a - b												
(注) 端数処理の												

(注) 端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

# 比 較 貸 借 対 照 表

		L	1 刘思衣			41.	
年度	R元年度	H30年度	H29年度	j., 24. X		較	<b>.</b> -
科目	A	В	С	増 A-B	載 額 B−C	<u>A-B</u>	咸 率 <u>B-C</u>
	H	円	円	円	円	B  %	C  %
1 田中次在							·
1 固定資産	21, 161, 865, 494		22, 439, 834, 973	△ 653, 897, 143	△ 624, 072, 336	△ 3.0	△ 2.8
(1) 有形固定資産	14, 336, 129, 873	15, 004, 885, 729	15, 641, 269, 695	△ 668, 755, 856	△ 636, 383, 966	△ 4.5	△ 4.1
イ土地	326, 987, 121	326, 987, 121	326, 987, 121	0	0	0.0	0.0
口 建物	34, 343, 445, 519		33, 756, 745, 928	332, 427, 330	254, 272, 261	1. 0	0.8
減価償却累計額	△ 22, 804, 088, 564	△ 22, 196, 896, 259	$\triangle$ 21, 594, 799, 573	△ 607, 192, 305	△ 602, 096, 686	$\triangle$ 2.7	△ 2.8
ハー構築物	2, 180, 086, 391	2, 180, 459, 391	2, 180, 649, 391	△ 373,000	△ 190,000	△ 0.0	△ 0.0
減価償却累計額	$\triangle$ 1, 570, 385, 564	$\triangle$ 1, 538, 095, 705	$\triangle$ 1, 505, 549, 965	$\triangle$ 32, 289, 859	$\triangle$ 32, 545, 740	$\triangle$ 2.1	△ 2.2
二 器械備品	8, 970, 366, 849	8, 954, 957, 568	9, 449, 973, 071	15, 409, 281	$\triangle$ 495, 015, 503	0.2	$\triangle$ 5.2
減価償却累計額	△ 7, 132, 615, 930	△ 6, 798, 099, 338	△ 7, 004, 094, 163	$\triangle$ 334, 516, 592	205, 994, 825	△ 4.9	2.9
ホ 車両	15, 216, 955	17, 146, 955	16, 598, 044	△ 1,930,000	548, 911	△ 11.3	3.3
減価償却累計額	△ 12, 518, 700	△ 13, 608, 193	△ 12, 267, 843	1, 089, 493	△ 1,340,350	8.0	△ 10.9
へ 有形リース資産	21, 511, 460	21, 511, 460	21, 511, 460	0	0	0.0	0.0
減価償却累計額	△ 8, 525, 664	△ 7, 104, 720	△ 5, 683, 776	△ 1, 420, 944	$\triangle$ 1, 420, 944	△ 20.0	△ 25.0
ト 放射性同位元素	0	0	0	0	0	_	_
減価償却累計額	0	0	0	0	0	_	_
チ 建設仮勘定	6, 650, 000	46, 609, 260	11, 200, 000	△ 39, 959, 260	35, 409, 260	△ 85.7	316.2
(2) 無形固定資産	8, 315, 122	8, 745, 409	9, 175, 696	△ 430, 287	△ 430, 287	△ 4.9	△ 4.7
イ 電話加入権	6, 724, 720	6, 724, 720	6, 724, 720	0	0	0.0	0.0
ロ その他無形固定資産	1, 590, 402	2, 020, 689	2, 450, 976	△ 430, 287	△ 430, 287	△ 21.3	△ 17.6
(3) 投資	6, 817, 420, 499		6, 789, 389, 582	15, 289, 000	12, 741, 917	0.2	0.2
イ 投資有価証券	2, 003, 489, 000	2, 003, 489, 000	2, 003, 489, 000	0	0	0.0	0.0
口長期貸付金	62, 400, 000	56, 250, 000	52, 640, 000	6, 150, 000	3, 610, 000	10. 9	6. 9
ハ基金	4, 751, 531, 499	4, 742, 392, 499	4, 733, 260, 582	9, 139, 000	9, 131, 917	0. 2	0. 2
	1, (01, 001, 100	1, 112, 002, 100	1, 100, 200, 002	0, 100, 000	0, 101, 011	٠. ـ	***
2 流動資産	11, 333, 847, 019	10, 684, 597, 840	10, 257, 338, 546	649, 249, 179	427, 259, 294	6. 1	4. 2
(1) 現金預金	10, 051, 146, 362	9, 446, 678, 841	9, 010, 275, 182	604, 467, 521	436, 403, 659	6. 4	4.8
(2) 未収金	1, 260, 859, 946		1, 222, 239, 845	42, 112, 207	$\triangle$ 3, 492, 106	3. 5	△ 0.3
貸倒引当金	△ 4, 328, 148	$\triangle$ 5, 321, 865	$\triangle$ 6, 409, 572	993, 717	1, 087, 707	18. 7	17. 0
(3) 貯蔵品	25, 625, 859		31, 233, 091		$\triangle$ 6, 739, 966	4.6	△ 21.6
(4) 前払費用		24, 493, 125	31, 233, 091	1, 132, 734	△ 0, 739, 900		△ 21.0
	543, 000	0	0	543, 000	0	皆増	_
(5) その他流動資産 <b>資産合計</b>	32, 495, 712, 513	32, 500, 360, 477	32, 697, 173, 519	0 0 4 647 064	△ 196, 813, 042	_ △ 0.0	_ △ 0.6
具座口司	32, 433, 712, 313	32, 300, 300, 411	32, 031, 113, 313	△ 4, 647, 964	△ 190, 613, 042	△ 0.0	△ 0.0
3 固定負債	6, 621, 920, 394	6, 853, 634, 715	7, 178, 330, 642	△ 231, 714, 321	△ 324, 695, 927	△ 3.4	△ 4.5
(1) 企業債	3, 379, 745, 626	3, 816, 404, 444	4, 344, 033, 028	$\triangle$ 436, 658, 818	$\triangle$ 524, 633, 527 $\triangle$ 527, 628, 584	$\triangle$ 11.4	△ 12. 1
(2) リース債務	3, 373, 743, 020	974, 689	3, 961, 218	$\triangle$ 430, 036, 618 $\triangle$ 974, 689	$\triangle$ 2, 986, 529	当11.4	△ 75. 4
(3) 引当金	3, 242, 174, 768	,	2, 830, 336, 396	205, 919, 186	205, 919, 186	6.8	7.3
イ 退職給付引当金	3, 242, 174, 768		2, 830, 336, 396	205, 919, 186		6.8	7.3
1 超職和刊刊日並	3, 242, 114, 100	3, 030, 233, 362	2, 650, 550, 590	205, 919, 100	205, 919, 100	0.0	1.3
4 流動負債	2, 716, 580, 616	2, 887, 411, 059	3, 009, 033, 471	△ 170, 830, 443	$\triangle$ 121, 622, 412	△ 5.9	△ 4.0
(1) 企業債	676, 658, 818	723, 628, 584	742, 389, 893	$\triangle$ 46, 969, 766	$\triangle$ 18, 761, 309	$\triangle$ 6.5	△ 2.5
(2) リース債務	758, 662	2, 986, 529	2, 910, 538	$\triangle$ 46, 969, 766 $\triangle$ 2, 227, 867	∠ 18, 761, 309 75, 991	$\triangle$ 74.6	2.6
(3) 未払金	1, 330, 629, 270		2, 910, 538 1, 578, 061, 764	$\triangle$ 2, 227, 867 $\triangle$ 152, 578, 711	$\triangle$ 94, 853, 783	△ 14.6 △ 10.3	$\triangle$ 6.0
(4) 引当金	624, 240, 000	597, 815, 000	608, 962, 000	26, 425, 000	$\triangle$ 94, 853, 783 $\triangle$ 11, 147, 000	△ 10. 3 4. 4	$\triangle$ 6.0 $\triangle$ 1.8
(4) 引ヨ金 イ 賞与引当金	530, 805, 000	597, 815, 000 506, 356, 000	517, 897, 000	26, 425, 000 24, 449, 000	$\triangle$ 11, 147, 000 $\triangle$ 11, 541, 000	4. 4	$\triangle$ 1.8 $\triangle$ 2.2
ロ 法定福利費引当金	93, 435, 000	91, 459, 000	91, 065, 000	1, 976, 000	394, 000	4. 8 2. 2	0.4
(5) その他流動負債			91, 065, 000 76, 709, 276		3, 063, 689	2. 2 5. 7	4. 0
(の) てツ吧伽蜘貝領	84, 293, 866	79, 772, 965	10, 109, 216	4, 520, 901	ა, სნა, ნგ9	ə. <i>t</i>	4.0
5 繰延収益	9 994 096 001	9 196 6E6 000	3, 166, 770, 808	07 970 000	A 90 119 01F	0.0	A 1 A
	3, 224, 036, 891	3, 136, 656, 993	3, 166, 770, 808 9, 795, 733, 125	87, 379, 898 642, 579, 000	△ 30, 113, 815	2.8	△ 1.0
(1) 長期前受金	10, 855, 231, 036			642, 579, 000	416, 918, 911	6.3	4. 3 △ 6. 7
収益化累計額 <b>負債合計</b>	△ 7, 631, 194, 145		$\triangle$ 6, 628, 962, 317	△ 555, 199, 102	△ 447, 032, 726	$\triangle$ 7.8	
只貝口可	12, 562, 537, 901	12, 877, 702, 767	13, 354, 134, 921	△ 315, 164, 866	△ 476, 432, 154	△ 2.4	△ 3.6
6 资本会	97 070 011 957	97 070 011 057	97 070 011 057	_	0	0.0	0.0
6 資本金	27, 078, 811, 357		27, 078, 811, 357	0	0	0.0	0.0
(1) 自己資本金	27, 078, 811, 357	27, 078, 811, 357	27, 078, 811, 357	0	0	0.0	0.0
(2) 借入資本金	0	0	0	0	0	_	_
イ企業債	0	0	0	0	0	_	-
口 他会計借入金	0	0	0	0	0	_	-
3 FILA A	A 5 445 5:-	A 7 450	A E 505 5== ==	040 5::	050 615 111		
7 剰余金	△ 7, 145, 636, 745		△ 7, 735, 772, 759	310, 516, 902	279, 619, 112	4. 2	3.6
(1) 資本剰余金	332, 196, 587	332, 196, 587	332, 196, 587	0	0	0.0	0.0
イ補助金	332, 196, 587	332, 196, 587	332, 196, 587	0	0	0.0	0.0
ロー受贈財産評価額	0	0	0	0	0	_	_
(2) 欠損金	△ 7, 477, 833, 332		△ 8, 067, 969, 346	310, 516, 902	279, 619, 112	4. 0	3. 5
イ 当年度未処理欠損金	△ 7, 477, 833, 332	△ 7, 788, 350, 234	△ 8, 067, 969, 346	310, 516, 902	279, 619, 112	4. 0	3. 5
資本合計	19, 933, 174, 612	19, 622, 657, 710	19, 343, 038, 598	310, 516, 902	279, 619, 112	1.6	1.4
負債資本合計	32, 495, 712, 513	32, 500, 360, 477	32, 697, 173, 519	△ 4,647,964	△ 196, 813, 042	△ 0.0	△ 0.6

# 経 営 分 析 比 率 表

	_	第	R元年度	H30年度		H 2 9 年度	
	項目			本 県	全 国	本 県	全 国
1	資産及び資本構成比率		%	%	%	%	%
	固定資産構成比率	固定資産 産 固定資産+流動資産+繰延資産	65. 1	67. 1	77. 6	68. 6	76. 7
	固定負債構成比率		20. 4	21. 1	62. 1	22. 0	62. 2
	自己資本構成比率	資本金+剰余金+評価差額等+繰延収益 負債資本合計 ×100	71. 3	70.0	22. 1	68. 8	22. 3
	固定資産対長期資本比率	固定資産 ※100 資本金+剰余金+評価差額等+固定負債+繰延収益	71. 1	73. 7	92. 2	75. 6	90. 9
	固定比率		91. 4	95. 9	350. 7	99. 7	344. 3
	流動比率	<u>流動資産</u> ×100 流動負債	417. 2	370. 0	141. 7	340. 9	149. 6
	資金不足比率		_	_	_	_	_
	当座比率	現金預金+(未収金-貸倒引当金) 流動負債	416. 2	369. 2	134. 6	339. 8	144. 4
	現金比率	現金預金 流動負債 ×100	370. 0	327. 2	73. 4	299. 4	82.7
2	回転率		口	口	口	口	口
	自己資本回転率		0.71	0. 69	2. 36	0.72	2. 35
	固定資産回転率		0. 76	0.71	0.68	0.71	0. 69
	流動資産回転率	医業収益 (期首流動資産+期末流動資産)×1/2	1. 49	1. 50	2. 29	1.61	2. 23
	未収金回転率	医業収益 (期首未収金+期末未収金)×1/2	13. 22	12. 86	5. 31	13. 04	5. 45
3	損益に関する各種比率		%	%	%	%	%
	総資本利益率		0. 96	0. 90	0. 75	1. 22	0. 73
	総収支比率		101.6	101.5	98. 3	102. 1	98.6
	医業収支比率	医業収益 医業費用 ×100	87. 9	87.3	84.8	87. 9	85. 2
	給与費対診療収益比率	給与費×100 診療収益	70. 4	68. 0	61. 2	70. 5	61.6
	給与費対医業費用比率	<u> </u>	57. 5	54. 9	48. 9	57. 5	49. 3
	病床100床当たり職員数	期末職員数 運用病床数 ×100	人 98. 7	人 96. 7	人 140. 4	人 96. 9	人 139. 0
4	病床に関する比率	足/11/11/0下数	%	%	%	%	%
1	病床利用率		81. 1	80. 4	72. 1	82. 7	73. 2

<sup>(</sup>注) 自己資本=自己資本金+剰余金+評価差額等+繰延収益

総資本=負債資本合計

全国比率は、地方公営企業年監(総務省ホームページ)による。

資金不足比率は、(流動負債-流動資産)が負となることから、比率は算出されず、「一」と表記してある。